

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

夢や希望を追求し、真に生きる力を身につけた、社会に貢献できる人材を育成し、地域に根差し地域に信頼され愛される学校をめざす。

- 多様な個性をもつ生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、「社会を生き抜く力」を身につけるための基になる「確かな学力」を育成する。
- 安全で安心な学びの場で、よりよい人間関係の形成のため、思いやりと感謝の気持ちを大切に、互いに認めあい尊重しあう「豊かな心」を育成する。
- 厳しさの中にも、やさしさ・温かみのある丁寧な指導を通して、規範意識や自尊感情を高め、「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動する力」を育成する。

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成

- 「わかる授業」をめざし、授業改善に取り組む。
 - 各教科を中心に組織的な体制を構築し、生徒が主体的に学ぶことができるような授業形態や授業方法の研究を進める。
 - 授業公開、研究授業・研究協議や内外の研修を通し、教員一人ひとりの「授業力」の向上をはかる。
- 生徒の基礎的・基本的な学力の定着に取り組む。
 - 学力向上プロジェクト委員会を中心に、朝のスキルアップトレーニングの活用など、学力定着に関する具体案の作成・試行を行う。
 - 英語検定・漢字検定・数学検定等の各種検定の受検を促進する。
※各種検定受検者（H27年度 17.6%）を H30年度には 30%にする。

2. 自己実現に向けたキャリア教育・生徒指導の確立

- 普通科総合選択制の特徴を生かし、多様な進路希望の実現に対応する。
 - キャリア教育の一環として、エリア・自由選択科目の選択を基軸にした、進路意識の醸成、選択能力の向上をはかる。
※進路満足度のアンケート肯定的回答（H27年度 76%）を H30年度までに 85%に引き上げる。
 - 進学希望者に対する指導の充実により、幅広い進路実現を可能にする。
- 生徒の学校への帰属意識を高めるとともに、生徒の社会性育成のため規範意識を醸成する。
 - 遅刻指導の方法を工夫することで、年間遅刻者数の減少に取り組む。
※年間遅刻総数（H27年度 2798）を、H30年度には 2500 以下まで減少させる。
 - あいさつ、服装、遅刻についての指導を通じて、ルールやマナーの大切さを知り、守ることによって規範意識をはぐくむ。
- 生徒の自主・自律の力を育むため、自主的活動を充実させる。
 - 特別活動、生徒会活動に工夫を凝らし、活性化に取り組む。
※学校教育自己診断（生徒）HR活動の活発度肯定感（H27年度 52%）を H30年度には 65%とする。
 - 生徒の自主活動を支援し、部活動の活性化に取り組む。
※部活動加入率（H27年度 34.9%）を H30年度までには 50%以上とする。
 - 生徒会活動、部活動等で、地域と連携した活動を行う。
※連携活動回数（H27年度 5回）を H30年度には 10 回以上とする。

3. 安心安全な学校づくりに向けたサポート体制の確立

- 生徒理解の促進と教育相談体制の充実により、生徒の自立を促し、豊かな人間関係をつくる力の醸成を支援する。
 - 生徒一人ひとりへのきめ細かい対応、スクールカウンセラーの活用や外部諸機関との連携で、教育相談機能の一層の充実をはかる。
※学校教育自己診断（生徒）教育相談関連（「悩みの相談」の項目）の肯定的回答（H27年度 52%）を H30年度には 60%以上とする。
- こころと身体の健康教育の充実や体力づくりの推進をはかる。
 - 性やDVに関する教育や、薬物乱用防止・喫煙防止教育の充実に取り組み、健康で安全な生活を送るための知識を深める。
 - 生徒保健委員会活動の充実により、自らの健康を保持できる資質や能力をはぐくむ。
- いじめを許さず、違いを認め、人を思いやり大切にすることを養う。
 - 人権教育推進委員会を中心に人権教育を進め、生徒の人権意識の向上に取り組む。
※学校教育自己診断（生徒）人権教育充実度（H27年度 55%）を H30年度には 60%以上とする。
- 家庭と学校の連携を強化し、生徒の学校生活の充実に資する。
 - 学校・家庭間の連絡を密にし、保護者と共に生徒の成長を支援する体制を確立する。
※学校教育自己診断（保護者）家庭連絡充実の肯定的回答（H27年度 58%）を H30年度までに 75%以上とする。

4. 再編整備計画等の新たな教育状況に向けた体制づくり

- 中高連携・広報活動の充実をはかる。
 - 中学校訪問、説明会等を積極的に展開し、認知度を高め教育内容の理解を広める。
※学校説明会・オープンスクールの参加者数（H27年度 370人）を H30年度には 400人以上とする。
- 専門コース設置校への改編に向けて、教育内容等の充実を図る。
 - 再編整備プロジェクトチームの活動を継続し、専門コースの教育内容を具体化する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 10 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>生徒編</p> <p>1. 全般</p> <p>○分析</p> <p>「学校へ行くのは楽しい」（設問1）に対する肯定的回答は、昨年同様で 70%であった。5年前から推移を見てみると、少しずつではあるが肯定的回答が上昇し、否定的回答が下降している中で、生徒にとって居心地の良い学校になっているのではないかと考えられる。</p> <p>「学校の特色はよく出ている」（設問2）に対する肯定的回答は昨年と比べ 49%と上昇したが、まだ半分にも満たない。否定的回答は昨年より 28%と減少しているが、生徒は本校の特色について十分自覚していないということがわかる。普通科総合選択制を活かした教育課程やガイダンス機能、開校以来徹底している生徒指導等の成果などについては生徒は理解しているようであるため、この自己診断の設問について検討する必要があると思われる。</p> <p>○課題</p> <p>「厳しさの中にも温かさを持った生徒指導」「落ち着いて安心して授業を受けられる学校」として定着してきている。次の段階として、「学校に行くのは楽しい」の肯定的回答を 80%以上とする取り組みを学校全体で検討し推進していく必要がある。</p> <p>2. 生徒指導・進路指導</p> <p>○分析</p> <p>「学校生活について先生の指導は納得できる」（設問3）は肯定的回答が 48%（否定的回答 34%）で、今年は昨年に比べ、肯定的回答と否定的回答の差が広がっている。「学校は生徒の意見をよ</p>	<p>第1回学校協議会（7月）より</p> <p>平成28年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果指標を示すうえで、総数を増やすのか比率を上げるのか項目によって使い分ける必要がある。 遅刻総数は中期的目標で 2500 に設定しているが、本年度の評価指標も 2500 である。本年度で達成できるものの目標値はどんどん進行させるべきである。 検定受験に向けた声掛けをもっと頻繁に行ってほしい。 生徒指導がうまくいっているようだが、何かコツはあるのか。 普通科総合選択制から専門コース設置の普通科に変わるが、中学校はその対応に苦慮している。 <p>第2回学校協議会（11月）より</p> <p>学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校が楽しい」の項目はどのように楽しいのか、内容を明記した設問にする方がよいのではないかと。 【3. 相談体制・人権教育】（8行目「仕方がない」）の表記について、直接関係しなかった生徒や保護者にとっては「不明」の回答が増えてしまうが、「仕方がない」の文言は適切でない。 「魅力のある先生が多い」の肯定感が低いが、全員が一致して指導に当たっているため突出した先生がいないと判断してもよいのではないかと。

く聞いてくれる」(設問4)の肯定的回答は43%で、昨年より多くなっているが、まだ50%に満たない。また、指導に関しては納得できていない生徒が半数いる。生徒が納得できるよう丁寧に根気よくコミュニケーションをとっていく必要がある。

「ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある」(設問7)肯定的回答68%、「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」(設問8)肯定的回答71%と昨年より減少しているが、長い目で見れば上昇傾向にあるため、引き続き個々の生徒に対して、きめ細かく指導する体制を充実させていきたい。

○課題

生徒指導に関しては、指導の内容について教員全体で共有し、常に吟味・改善していく必要がある。また、何でも生徒のいうことを聞くということではなく、高い肯定感にならなくても、生徒にとって必要な指導であることを、ねばり強く全教員が統一して理解させていく必要がある。

3. 相談体制・人権教育

○分析

「いじめやもめごとなど、先生は色々な問題を見逃さずに対応してくれる」(設問5)は、肯定的回答が41%で、否定的回答(37%)を上回ってはいるものの、不明が22%もある。だが「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」(設問6)の肯定的回答は昨年とほぼ同様に数年前と比較すると高い水準である。担任や学年、また部活動顧問など全教職員が、生徒の様子を細かく観察し、会話が密にできているということではないだろうか。教育相談室を積極的に利用できるように取り組んでいる結果が、表れていると思われる。「不明」の回答が多いのは、これらの設問の状況におかれている生徒が少ないこともあり、仕方がないかもしれない。またいじめやもめごとが、日常にあまりないことから、「不明」の回答が多いという推測もできる。

「人権の大切さについて考える機会が多い」(設問9)は、肯定的回答(50%)と昨年比べて5%減少しているので、継続的な人権学習等の機会が必要であると考えられる。

○課題

教職員がきめ細かく生徒の観察を行い、生徒が常に教職員に見守られているという状況を作っていく必要がある。

広報も工夫をしながら積極的に行い、取り組みをしっかりと伝えていくとともに、事後アンケートなどの検証をより精密に行い、次につなげていく必要がある。

SCの配当時間が年々減ってきているのでもう少し増やしていき、毎週カウンセリングを受けられる環境整備ができればと考える。

また人権に関しては、生徒が身近に感じることができると内容を選択し取り入れることで、より考えやすくなり、結果もでてくると考えられる。

4. HR活動・エリア選択・科目選択

○分析

「ホームルーム活動は活発で、クラス全体で積極的に関わっている」(設問10)は肯定的回答54%となっている。生徒会行事などは年々充実してきて、生徒の満足度も高くなってきていると思われる。「エリアの仕組みは、説明を聞いてよくわかる」(設問11)、「選択科目は、自分の興味・関心・適性・進路に応じて選びやすくなっている」(設問12)は、それぞれ68%(設問11)、62%(設問12)となっている。エリア・科目選択については、ガイダンス機能を高め、生徒にとってわかりやすい形になってきていると思われる。

○課題

ホームルーム活動については、生徒会の活動等が充実してきたが、否定的回答が約3割もあるので、各クラスで生徒の状況にあわせた活動を、内容や方法を工夫して生徒の興味を引き出しながら実施していく必要がある。

エリア・科目選択が高評価になっているのは、ガイダンス部、学年によるガイダンスシステムがうまく機能していることの表れだと思うが、この結果に満足せずさらに向上をめざすべきである。

保護者編

昨年と比較すると「授業はわかりやすいようだ」が52%から61%に、「学校は教育方針を伝えてくれる」が51%から58%に、「進路についての情報をよく知らせてくれる」が46%から57%に肯定的回答が増加している。地道な取り組みの成果だと思われる。しかし、「いじめに対応してくれる」は不明が50%もあり、肯定的回答の40%を上回っている。生徒の結果と同じく、係る状況におかれていないために「不明」が増える傾向にあるのだが、取り組み内容を発信していく広報が不足していることの表れである。生徒や保護者への発信、問いかけを増やすことが必要である。

・部活動の加入率は40%前後であるが1年の加入率は良い。特に男子生徒が少ない人数の中、よく加入している。これが「元気な学校」という評価に繋がっている。

・学年ごとのカラー(違い)を調べる(追跡する)必要もあるのではないか。

・エリアが進路と繋がったように、コースの特色を前面に出し進路との関係性を模索し、普総選の成果を今後に活かしていくべきである。

・全体的に客観的な設問では「わからない」が増える傾向があるので、できるだけ主観的な設問にしていくことが望まれる。

その他

・『学力向上プロジェクト』は「学力とは何か?」というところから考えてみてはどうか。

・大学・短大共に退学する生徒が一定存在している。大学・短大は振り返り授業等の取り組みで成果を出しているが、さらに高大連携、地域連携等の取り組みを考えていきたい。

第3回学校協議会(2月)より

授業アンケートについて

・ポイントにばらつきが少ないのはいいことである。

・学年別にデータを取り、比較して経年伸び率を検証することが望ましい。

・研究授業の効果は大きい。授業を通して教員同士のコミュニケーションが広がることもある。研究協議なしでもいいから、保護者や教員間で自由に見学できる公開授業週間を設定したり、学校間の公開授業を考えるのもいいかもしれない。

・実技科目が得点が高いのは、実験実習結果と解答がきちりつながって理屈原理と結果の一致が興味関心につながるからである。

・「読む・書く」の国語力を土台にしたプレゼンテーション力が必要とされる。

・英語検定、漢字検定、PC検定など在校中の資格取得が励みになっている。教科でさらに強く推し進めてほしい。

・主体的に学び、自ら学び、協同的に学ぶことが大切である。

自己評価について

・年々ポイントがあがっているが、ますますハードルが高くなる。

・「定着」を図るためには、まず「継続」から。

・これが「かわち野」という特色がなく、インパクトが薄い。地域との連携が遅れており、地域とのコミュニケーション不足、教員通しのコミュニケーション不足が心配。

・広報活動では「ロコミ」の力が意外に大きく、PTA等とのコラボを模索すべきである。

・部活の加入率が低いのが気になる。部活が活性化すると学校に元気が出る。アルバイトとの関連で、優先順位が部活になるようにしなければならない。従来の形態にとらわれず、早朝だけとか昼休みだけとかの活動も考えるべきである。

・若手の取り組みは心強い。年次研修の活用や、ミドルリーダーの巻き込みを押し量るべきである。

・大学は近くで選び、ペーパー入試を嫌う傾向にある。

・ここをめざすという具体例を示し出口をはっきりさせることが広報の充実につながる。

・再編カリキュラムにおいて、専門学校、大学の出前授業を積極的に取り入れるべきである。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 確かな学力の育成	<p>(1)「わかる授業」をめざした授業改善 ア.授業形態・授業法の研究</p> <p>イ. 授業公開、研究授業・研究協議の推進</p> <p>(2)基礎・基本の確実な定着 ア.学力向上プロジェクト委員会の活動促進</p> <p>イ.検定受検の促進</p>	<p>(1) ア. 授業アンケートの結果に基づいた課題シートを活用し授業改善に取り組む。</p> <p>イ.若手教員の授業研究会を中心に授業公開・研究協議を行う。協議内容を職員会議等で報告し、全教員で成果を共有する。</p> <p>(2) ア. 学力向上プロジェクト委員会を中心に、朝のスキルアップトレーニングの成果の検証を行い、内容を発展させる。</p> <p>イ.広報活動の工夫で、検定受検者の増加を図る。</p>	<p>(1) ア.授業アンケート「授業がわかりやすい(授業展開)」(H27 3.28)を 3.30 以上、「授業の工夫(教材活用)」(H27 3.25)を 3.27 以上</p> <p>イ. 研究授業および研究協議(H27 3回)を 5 回以上</p> <p>(2) ア. 学力向上プロジェクト委員会 5 回以上開催</p> <p>イ.受検者(H27 17.6%)を 20%以上</p>	<p>(1) ア.授業アンケートの結果に基づいた課題シートを活用して教科ごとに課題について検討する機会を設け、生徒の状況の細やかな把握に努めた。ICT 機器を活用した授業も増えてきた。授業アンケート「授業がわかりやすい(授業展開)」3.39、「授業の工夫(教材活用)」3.34 であった。(◎)</p> <p>イ.研究授業および研究協議は 7 回行ったが、研究協議の時間が十分取れないこともあり、全教員での成果の共有にはまだ課題が残る。(○)</p> <p>(2) ア.1 学期に委員会は 4 回開催。学力向上プロジェクトの目的・目標の再確認を行い、プロジェクトが学校全体での取り組みとなるよう委員会の改編を行った。改編後の委員会を 2 回開催し、スキルアップトレーニングの成果の検証から、次年度の方向性について検討した。(○)</p> <p>イ.昨年度は、漢字検定・英語検定の受検者総数は 119 人(17.6%)、今年度は、110 人(16.2%)であった。(△)</p>
2. 自己実現に向けたキャリア教育・生徒指導の確立	<p>(1) 普総選の特徴を生かした進路指導の推進 ア.エリア等の選択を基軸にした進路指導</p> <p>イ. 進学者向けの指導の充実</p> <p>(2) 規範意識の育成 ア.遅刻指導の強化</p> <p>ウ. あいさつの励行と服装指導</p> <p>(3) 自主的活動の充実 ア.生徒会活動の活性化</p> <p>ウ. 部活動の活性化</p> <p>ウ.地域連携活動の推進</p>	<p>(1) ア.1・2年のエリア・自由選択のガイダンス、3年の進路ガイダンスを充実させ、進路への意識を向上させる。</p> <p>イ. 系統的、継続的な進学補習等の充実を図る。</p> <p>(2) ア.前年度効果のあった遅刻の毎日放課後指導を継続し、新しい工夫も加えながら遅刻数の減少に取り組む。</p> <p>イ. 登下校時や校内での教職員からの積極的な声かけを心がける。</p> <p>(3) ア.生徒会執行部の活動領域を増やし、生徒の自治活動を促進することで、生徒の参加感を向上させ、自主性の育成につなげる。</p> <p>イ. 新入生による部活動見学会、部活動体験を行う。</p> <p>ウ.部活動等における地域との交流活動を活性化する。</p>	<p>(1) ア.進路満足度のアンケート結果(H27 76%)を 80%以上</p> <p>イ.指定校推薦以外での受験者数(H27 42人)を 50人以上、合格者(H27 47%)を 50%以上</p> <p>(2) ア.年間遅刻総数(H27 2798件)を 2500 件以下</p> <p>イ. 学校教育自己診断(生徒)の規範意識の項目の肯定的回答(H27 81%)を 85%</p> <p>(3) ア.学校教育自己診断(生徒)の HR 活動の項目の肯定的回答(H27 52%)を 55%以上</p> <p>ウ. 部加入率(H27 34.9%)を 40%以上</p> <p>ウ.地域連携の活動回数(H27 5回)を 7 回以上</p>	<p>(1) ア.エリア・自由選択のガイダンスの充実や各学年の進路ガイダンスを丁寧に行うことで、個々の生徒の進路への意識の向上がはかれた。進路満足度のアンケート結果は 81%であった。(○)</p> <p>イ. 各学年で夏季休業中に国語・数学・英語を中心に進学補習を行った。3 年生は進路希望に応じた対応を継続的に行った。その結果、指定校推薦入試以外での大学・短大受験者数は 63 名で、合格者は 54%であった。(◎)</p> <p>(2) ア.遅刻の放課後指導を継続して行い、指導の際には昨年以上に説諭を丁寧に行った。また、集会等でも「なぜ」遅刻がいけないのかを生徒に理解させる指導をすすめた。年間遅刻総数は、2256 件。(◎)</p> <p>イ.登校指導では、全教職員の協力のもと、PTA や生徒会役員、運動部員も参加し、あいさつ運動を行った。HR や集会等で、あいさつ・服装指導についての声掛けや指導を行うことで、あいさつの定着、正しい制服の着用が生徒に身に付いてきている。学校教育自己診断(生徒)の規範意識の項目の肯定的回答は 85%であった。(○)</p> <p>(3) ア.生徒会執行部の生徒たちには、学校行事(体育祭や文化祭等)、オープンスクールでの進行、また今年度からは学校保健委員会に参加し意見を述べるなど活動の場を増やしたことで、生徒の表現力・発言力を育むことができ、今後各 HR での活動の活性化にもつながると思われる。学校教育自己診断(生徒)の HR 活動の項目の肯定的回答は 54%であった。(△)</p> <p>イ.部活動見学・体験はほぼ確立できてきたが、生徒たちの興味関心も多様化しているため、見学・体験の方法も検討する必要がある。今年度の部加入率は 38.5%であるが、今後は退部率や活動率なども調べながら活性化をはかる必要がある。(△)</p> <p>ウ.部活動の地域交流である「かわち野カップ」は女子バレーボール部、男女バスケ部で行った。また、これ以外でも地域の中学校の合同練習の場を提供したり、地域のイベントへダンス部や吹奏楽部が参加したりしており、連携回数は 7 回を超えている。(○)</p>

府立かわち野高等学校

<p>3. 安心安全な学校づくりに向けたサポート体制の確立</p>	<p>(1) 教育相談体制の充実 ア.相談機能の充実</p> <p>(2) 健康で安全な生活を送るための知識 ア.性・健康に関する講演会</p> <p>イ. 保健委員会活動の充実</p> <p>(3) 人権教育の推進 ア.生徒の人権意識の向上</p> <p>(4) 家庭と学校の連携の強化 ア.学校・家庭間の連絡の徹底</p>	<p>(1) ア.生徒への周知を図るとともに、ケース会議や教員研修を通して教育相談の体制を充実させる。</p> <p>(2) ア.性・健康に関する講演会の事前指導などを計画的に行うことで、より興味・関心の持てる講演会とし、生徒の理解を向上させる。</p> <p>イ. 生徒の保健委員会活動を充実させることで、生徒の関心を高めて保健への意識を向上させる。</p> <p>(3) ア.「人権だより」等の広報の工夫、取り組みごとに「振り返りシート」を用い、事前・事後指導を丁寧に行うことで、生徒の理解度を向上させ人権意識の定着を図る。</p> <p>(4) ア.保護者への迅速な連絡体制の確立、「学年だより」、保護者向けメールサービス等を利用したきめ細かい対応で、学校への信頼感の向上を図る。</p>	<p>(1) ア.学校教育自己診断(生徒)教育相談関連の肯定的回答(H27 52%)を55%</p> <p>(2) ア.各講演会後のアンケートで理解度85%以上</p> <p>イ. 保健委員による美化活動や発表活動</p> <p>(3) ア.学校教育自己診断(生徒)の人権教育関連の肯定的回答(H27 55%)を58%以上</p> <p>(4) ア.学校教育自己診断(保護者)の家庭連絡充実の肯定的回答(H27 58%)を65%</p>	<p>(1) ア.前年度に引き続き、校長7社以外予算でSCの来校回数を増やし、またSCとの日頃からの連携により緊急な課題にも対応できるような体制をとった。不登校支援事業により適応指導教室の指導主事・臨床心理士による教員研修を2回行い、今後の教育相談体制の確立に向けて取り組んだ。学校教育自己診断(生徒)の教育相談関連の肯定的回答は51%であることから、生徒への周知に課題が残る。(△)</p> <p>(2) ア.6月に1年生対象に性教育講演会を行った。講演後のアンケートでの生徒の理解度は90%であった。また、1月に3年生対象に健康問題解決支援事業における産婦人科医師派遣事業で「自分で守る生と性」の講演を行った。講演後のアンケートでの生徒の理解度は88%であった。(◎)</p> <p>イ.生徒保健委員会活動として、登校指導への参加、学校保健委員会への参加、校内美化活動などに積極的に取り組んだ。今年度は、大阪府立高等学校保健研究発表大会で保健委員会の取り組みを発表した。(○)</p> <p>(3) ア.「人権だより」は全体では1回発行した。その後は、各学年から取り組みの事前指導を含めて広報した。「振り返りシート」による事後指導では、どの取り組みも理解度は70%を超えていたが、学校教育自己診断(生徒)の人権教育関連の肯定的回答は50%と昨年度より低くなった。この結果より定着に課題があると考えられる。継続した学校全体での取り組みの意識が必要である。(△)</p> <p>(4) ア「学年だより」は1年生は毎月1回、2・3年生は学期に1～数回発行した。保護者向けメールサービスも毎月1回配信し、また年3回登録用送信アドレスのQRコードを掲載した案内文を配付し、災害等緊急時にも使用することの周知もすすめた。1年生では66%、全体では60%強の保護者の登録があるが、今後も周知をすすめていきたい。学校教育自己診断(保護者)の家庭連絡充実の肯定的回答は、59%であった。(△)</p>
<p>4. 再編整備計画等の新たな教育状況に向けた体制づくり</p>	<p>(1) 中高連携・広報活動の充実 ア.広報活動の活性化</p> <p>(2) 専門コース設置校への改編 ア.教育課程・施設設備等の整備</p>	<p>(1) ア.次年度からの専門コース設置校への改編を周知するために、広報活動の活性化、学校説明会・オープンスクールの充実、ホームページの刷新を行う。</p> <p>(2) ア.再編整備プロジェクトチームを継続し、専門コースの授業内容の充実を図るとともに、中学校向けの広報を充実させる。</p>	<p>(1) ア.学校説明会・オープンスクールの参加者数(H27 370人)を380人以上</p> <p>(2) ア.プロジェクトチーム会議を年間5回以上</p>	<p>(1) ア.学校説明会・オープンスクールの参加者数は、439人であった。さらに改編の周知や広報活動の活性化に向けて、学校説明会の時期や内容について検討する予定である。また、ホームページの更新は毎月1回以上行っている。CMS本格実施を機にホームページの刷新をすすめている。(◎)</p> <p>(2) ア.教育課程委員会を中心に、専門コースだけでなく様々な生徒のニーズに対応すべく教育課程の充実をはかった。再編整備に関して学校全体の共通理解と認識の確認を行い、プロジェクトチームの在り方と方向性について検討した。そのため、継続の形態のプロジェクトチーム会議は3回に留まった。(△)</p>